



ひがしの子

令和7年3月3日
岐阜市立岐阜東幼稚園
園長 広瀬 みゆき

魅せる会（表現の会）においてくださり、ありがとうございました！

2月5日（水）こあら組、13日（木）なつめ組、21日（金）たいよう組の魅せる会が行われました。ご多用の中、園においてくださりありがとうございました。それぞれのクラスのホームページで、取り組みの様子等をお知らせしていたと思います。重複する部分はあるかと思いますが、少しこの通信でもそれぞれのクラスの様子をお知らせいたします。

<こあら組>

当日は、雪が降る中での魅せる会になりました。こあら組の子どもたちにとっては、初めての魅せる会です。中には、ドキドキして恥ずかしくなってしまった子や、いつも以上にテンションが高くなってしまった子もいました。でも、当日の姿がすべてではありません。当日に至るまで、いろいろな動物になりきって、お風呂ごっこを楽しんできました。

「ゴシゴシ、シュッシュッ！」という掛け声や、お風呂にみんなで入るところが楽しくて、何度も楽しんでいました。なりたい動物も様々です。お面もかぶりたいたい子もいれば、あまりかぶりたくない子もいます。“こうでなければならぬ”のではなく、それぞれの子が、自分の“やりたい！”や“楽しい！”を見つけ、繰り返し楽しんでいの中で、お友達の“やりたい”ことや“楽しい”ことと触れ合い、共有する場面もありました。一緒に段ボールのお風呂に入るだけでも、なんだか楽しい・・・そんな様子が伝わってきましたよ。



劇ごっこも歌や楽器遊びも、自分たちが楽しいとともに、お客さんに観てもらいたい気持ちもありました。ちょっぴり恥ずかしい気持ちと、見てほしい気持ち・・・そんな気持ちが入り混じっていました。

私がお客さんになって見せてもらったとき、拍手をしたら「拍手してもらえたー！」と、とても嬉しそうでした。自分たちが楽しいと思うことを、お客さんに観てもらおう喜びも感じていました。当日は、お家の方が来てくださったからなおさら嬉しかった子どもたちです。特に、最後の親子ダンスは、子どもたちの“嬉しい！”気持ちがいっぱいでした。

子どもたちだけでなく、保護者の皆様も笑顔がいっぱいで、本当に素敵でした。温かいまなざしで子どもたちを受け止めてくださり、本当にありがとうございました。



<なつめ組>

1番人数が多いなつめ組さん。いつも元気いっぱいです。そんななつめ組さんの劇は「ももたろう」でした。魅せる会で何をやるのか、そして、劇が決まったら、何の役をやるのか・・・等、みんなで話し合っていました。やりたい役がたくさんあって、なかなか決まらない子、反対に、劇となると恥ずかしくてあまり気持ちののらない子・・・など、取り組み方はそれぞれでした。

でも、「〜ごっこ」が大好きななつめ組なので、「ごっこ」がそのまま「ももたろう」になっていきました。そのために、一般的なももたろうには出てこないような、様々なキャラクターが出てきました。

ごっこ遊びを楽しんでいるからこそ、なりきっています。忍者、ウルトラマン、プリキュア、様々な動物たち・・・それぞれの特徴がよく出ていました。ある子は、「ネコ」になりきっていて、当日も立たずに四つ這いで移動していました。“なりきっている”からこそ、演じているからこそ、その選択をしたことが、その子の言葉から伝わってきました。

観てもらいたい気持ちと、見られると恥ずかしい気持ちが入り混じっていることから、いつも通りではない子もいました。(もちろん、いつも通りの子もいました。)



自分の出番を待つ間、それぞれの場所で潜んでいる姿・・・。かわいいですね。ドキドキが伝わってくるようです。初めは、出番ではない時に、じっと待たなくて、騒いだり、出歩いたり、ふざけたり・・・なんてこともありました。当日は、気持ちが高揚しすぎたりすることもありましたが、「待つ」姿の育ちも見ていただけたのではないかと思います。

お家の方が来てくださることが本当に嬉しくて、ワクワクしていたなつめ組さん。

当日、多くの保護者の方が来てくださり、本当に嬉しそうでした。劇の演出上、遊戯室の周りを子どもたちが回ること、観にくい場面もあったかと思いますが、温かく見守ってくださり、一つ一つに大きな拍手をくださったこと、本当に嬉しく思います。

ご理解ご協力くださり、ありがとうございました。



<たいよう組>

幼稚園最後の魅せる会です。器楽合奏、歌、劇、得意なこと等、やりたいことは盛りだくさんです。

何をやりたいか、劇は何をやるか等、たくさん話し合ってきました。

やりたい劇も3つ。「おしれのぼうけん」「エルマーのぼうけん」「いやいやえん」です。どれもやりたい子が、それぞれにいます。多数決で1つに絞るのも一つの方法です。それぞれに、主張して、改めて考え直していく方法もあります。今年のたいよう組さんは、話し合った結果、3つの話を行うことにしました。先生と子どもたちで相談しながら、3つのお話を1つの劇にすることに……。



それぞれのチームに分かれて劇ごっこをしたり、大道具小道具を作ったりします。どれもやってみたくて、いろいろ経験する子、ずっと1つのものに徹する子、それぞれです。次第にやりたいものが決まっていき、自分のチームの道具を協力して作ったり、衣装を作ったりしました。

左の写真の押し入れは「おしれのぼうけん」のおしれです。でも、途中からは、3つのお話をつなぐ「トンネル」に変身します。2枚目のエルマーの世界の写真の中にあるのが、そのトンネルです。一生懸命考えて、一生懸命作った大道具です。すごいですよね！

「いやいやえん」の世界で出てくる大きな船。この船は、本当に動きます。ここも、たいよう組さんがこだわったところです。本当に乗れて、本当に動くものを作りたい！と試行錯誤しながら、キャスター付きの板の上に段ボールでできた船がのっています。これを引っ張ったり、後ろから押しているのは、黒子の子どもたちです。

みんなの力で、劇ができています。本当に素敵だなと思いました。

得意なことを見ていただくのは、時間の関係で、事前収録したものを、親子で一緒に見ました。けん玉や、コマ等、自分の見せたい技を見てもらいます。これも、みんなコツコツと取り組んで、本当に様々な技ができるようになりました。帰りの会で見せ合うときも、「がんばれ！」「～くんならできるよ！」「おしれ、あと少し！」等、声をかけていました。

相手に思いを馳せて声をかける姿が素晴らしいです。

さらに、ある日、こんなやりとりがありました。けん玉披露の場面で、「今、こういうやり方してるけど、もっと普通にやったらいいよ。」とAくんたち。それを聞いたBくんは「普通ってどういうこと？わからないから教えて。」と言いました。Aくんたちは、やり方を実演しながら一所懸命伝えていました。「わかった。やってみる。」とBくん。誰も急かすことなく、がんばるBくんを応援したり見守ったり。見ていた私はその姿に胸が熱くなりました。自分の思いをきちんと伝え合えるからこそその場面です。そして、それを受け入れるみんながいるからこそです。さすが年長さんです。魅せる会当日がすべてではなく、そこに



至るまでの経験も含め、すべてが貴重な豊かな経験だと、改めて思いました。

保護者の皆様、当日までにも不安になったり、時には仲間とぶつかり合ったりした子どもたちの話を聞いてくださり、支えてくださり、本当にありがとうございました。当日も温かいまなざしと、温かい拍手、本当にありがとうございました。

《3月の保育について》

【3歳児】

- 年中児になる期待をもち、いろいろなことをやってみようとする。
- 先生や友達と一緒に、いろいろな表現遊びを楽しむ。

【4歳児】

- 友達の中で自分を伸び伸びと表現し、共に過ごす楽しさを感じる。
- 年長組になる生活を意識し、進級を楽しみにする。

【5歳児】

- 1年生になる期待と喜びをもって友達と一緒に遊んだり、共にいることを楽しんだりする。
- 自分なりの願いをもち、それを達成するために遊びや生活の中に様々な環境を取り入れ、遊びを創り出す喜びを味わう。

